

保護者の皆様

豊能町立東能勢小学校

校長 高橋 弘樹

令和4年度(2022年度)全国学力・学習状況調査の結果
および今後の取り組みについて

深秋の候、保護者の皆さまには、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校の教育活動推進にご理解ご協力をいただきありがとうございます。

さて、4月19日(火)に実施しました6年の「全国学力・学習状況調査」結果分析を行いました。当該学年の6年生児童には個人結果を返却しましたが、本校全体の結果につきまして概況を報告いたします。本校においては調査人数自体が少ないため、統計の数字だけで良い・悪いを判断しづらい面もありますが、課題については、校内で共有し、改善に向けて取組みを進めてまいります。ご家庭でも話題にいただき、学習の参考としていただきますよう、よろしくお願い致します。

本調査は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、学校における教育活動の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に、平成19年度より実施されています。調査には、国語・算数・理科と児童質問紙(生活習慣や学習に対する意識等の調査)です。今回の調査の問題や質問紙の内容は、国立教育政策研究所のホームページ(www.nier.go.jp)で公表されています。また、豊能町の結果概要と分析、今後の取組み等は、町ホームページ(www.town.toyono.osaka.jp)に公開されていますのでご覧ください。なお、この調査における結果は、児童が身につけるべき学力の特定の一部であることにご留意ください。

1. 学力調査の結果

(1) 国語

平均正答率は、大阪府・全国より大きく下回っており、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の全ての領域において、大阪府・全国平均より大きく下回った。

正答率が高く・国との差が少ない問題

大問2(1)

大問2三

物語を読んで、叙述を基に登場人物の行動や気持ちなどを捉えたり、表現の効果を考えたりする力が身に付いている。

無答率が高く・国との差が大きい問題

大問3三(ア・イ・ウ)

漢字の記述問題では無答率が高い

1四

2二

3二

記述問題の正答率が低い。特に、B「書くこと」3二の記述問題では、正答率が低く、無答率も高い。条件に合わせて文章を書くこと(○字以上□字以内にまとめて書く・文章中の言葉や文を取り上げて書くなど)に課題がある。

【課題改善に向けての取り組み】

- ・児童が興味・関心を持ち、学習する楽しみや意義を見出せるような授業改善を行っていくことで、学習意欲の向上を図る。
- ・朝読書や給食等のすきま時間に読み聞かせを行い、多様な文章表現に触れることを通じて、語彙力を高める。
- ・朝国語の時間に〇〇作文や写真を見て吹き出しをうめる問題に取り組むことで、文章を書くことに慣れる。
- ・国語の授業で、物語文を読んで感想を書いたり、説明文を読んで自分の考えを書いたりする言語活動を積極的に取り入れる。
- ・自主学習の取り組みを全学年で実施し、主体的に学習に向かう姿勢を身につけられるようにする。
- ・タブレットを活用して、楽しみながら漢字の習熟を図る。1～3年生までに学習した漢字の復習を中心に行う。

(2) 算数

平均正答率は、大阪府・全国より大きく下回っており、「A 数と計算」「B 図形」「C 変化と関係」「D データの活用」の全ての領域において、大阪府・全国平均より大きく下回った。

正答率が高く・国との差が少ない問題

大問2(3) 全国よりも正答率が高い。2つの数量の関係について考察する問題であるが、(3)だけが正答率が高い理由として、生活体験から正答を導いた可能性がある。

無答率が高く・国との差が大きい問題

大問1(3) 理由を書く問題の無回答率が高い。

大問2(1) 割合の問題。「分数で表す」と書いてあるにもかかわらず、小数での回答が多い。

大問3(4) 求め方を言葉で書く問題。無回答率が高い。

大問4 図形を構成する要素に着目して、長方形やひし形、平行四辺形などの意味や性質、構成の成り立ちについて理解しているかどうかをみる問題。

※全体的に記述式の正答率は低く、無回答率も高い。

【課題改善に向けての取り組み】

- ・日常の具体的な場面に対応させながら、理解したり、図や式などを用いて表したりすることを大切にする。
- ・図形の構成要素に着目しながら、観察や構成などの活動を通して、図形の意味を理解したり、図形の性質を見つけたり、図形の性質を確かめたりすることを大切にする。
- ・特に記述式の問題の無回答が多いことが本校の大きな課題である。課題に対して予想したり、話し合ったりすることを通して、説明する力、記述する力をつけていく指導を行う。

(3) 理科

平均正答率は、大阪府・全国より大きく下回っており、「エネルギー」「生命」「地球」の領域において、大阪府・全国平均より大きく下回った。「粒子」の領域において大阪府・全国平均より下回った。

正答率が高く・国との差が少ない問題

大問3(2) 正答率が全国と比較して高かった。3年生で学習する内容からの出題であったが、正答率が高かったのは、鏡を使った体験的な活動を実際に行い、楽しく学ぶ経験をしていたことと、文章を的確に読み取り、4択の中から正しい答えを選ぶことができたためであると考えられる。

無答率が高く・国との差が大きい問題

大問3(1) 光が直進するという性質と図が示しているところから実験の結果を予想する。

大問4(1) 気温の変化のグラフを読み取り、グラフから考察する。

※全体的に思考・判断・表現の問題は正答率が低い。

【課題改善に向けての取り組み】

- ・知識・理解を問う単元テスト以外にも、思考力を深めるための課題設定や、問題を正しく読み取る力をつける指導を行う。
- ・実験・観察から考察したことを自分なりの言葉でまとめるという活動を習慣化し、論理的思考力の向上を目指す。
- ・3年生から9年生までを見通した理科教育の系統性を意識し、各学年で習得しておくべき基礎・基本の定着と既習事項を活用した発展的学習に取り組んでいくことが必要である。

2. 学習状況調査の結果

※特に国との差が大きかったもの・学校教育目標に関連のあるものについて記載

※網掛けなし⇒肯定的回答が国と比べて高かった項目 網掛けあり⇒肯定的回答が国と比べて低かった項目

【基本的な生活習慣、学習習慣、学習環境等】

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)【1時間以上】

毎日同じくらいの時刻に起きていますか。

普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。【2時間以上】

【挑戦心・達成感、規範意識、自己有用感】

いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。

自分には、よいところがあると思いますか。

学校に行くのは楽しいと思いますか。

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

【地域や社会に関わる活動の状況等】

自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか。

地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。

今住んでいる地域の行事に参加していますか。

【学習に対する興味・関心や授業の理解度】

国語の勉強は好きですか。
理科の勉強は好きですか。
算数の勉強は好きですか。

【授業改善に関する取り組み状況】

5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。
5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。

【いじめについて】

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」という項目については、100%の児童が「いけない」と回答しており、規範意識の高まりがみられます。今後も取り組みを積み上げていくとともに、教育活動全般をとおして、さまざまな形・内容で指導を継続していきます。

【課題改善に向けての取り組み】

- ・「学びのスタンダード（学習規律）」をもとに、全ての児童が活躍できる授業改善に取り組み、基礎基本の定着や学習意欲の向上をめざす。
- ・「とよの授業スタンダード」を基本とした授業を構成し、「主体的・対話的で深い学び」のある授業を実践する。
- ・今年度の研究主題「『ことば力』でつくりあげる集団の育成」より、体験的活動や言語活動を充実させ、児童の思考力や論理的表現力の育成を図る。
- ・自ら計画し実施していく自主学習全学年で行い、主体的に学習に取り組む機会を増やす。
- ・学級活動・縦割り活動・人権総合学習等の取り組みを通して、自己肯定感を高められるようにする。
- ・地域の方との交流・協働の学習を通して、地域への愛着心を育むとともに、キャリア教育の視点からのアプローチを充実させる。

3. おわりに

今回の調査の結果を分析し、課題改善に向けての取り組みを検討しました。課題改善は一朝一夕に成果が出るものではないですが、日々の実践の積み重ねによって、何年もかけて徐々に成果としてあらわれてくるものだと考えています。学校全体で課題改善に向けて取り組んでいきます。

学習状況調査結果のなかでも自分の意見や考えをまとめることが全国に比べ苦手としている児童が多いように受け止めています。まずは、1年生から基礎基本の積み上げや学習意欲の向上をめざし、「とよの授業スタンダード」を基本とした授業を構成し、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実践を行ってまいります。それに加えて、自分の意見をまとめ友達と交流し、さまざまな考え方にふれていけるような授業づくりをめざします。

並行して、自己肯定感を高められる活動も行います。学級活動、縦割り活動、人権総合学習等の取り組みを通して、また、地域のかたにご協力をいただき地域への誇りを育てていけるような活動も進めてまいります。学校でどのような取り組みをしたのかについて、ご家庭・地域においても興味関心をもって聴いていただくことで、子どもの活動への意欲が高まり、また、共感してもらうことで自己肯定感も高まります。ご家庭・地域のみならずと連携しながら、子どもたちの成長への取り組みを進めてまいりたいと考えています。今後とも学校教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。